

ガイダンス レジューメ

「早稲田合格答練」で合格を掴む！有効な答練活用方法とは？

担当講師 司法書士 高津 笑

1. 合格レベルに達するために必要な作業・能力

- (1) 必要な知識を入れる。(インプット)
- (2) 勉強した知識を整理する。(似ている論点は意識して比較、知識の精度を上げる。)
- (3) いざ、試験の問題(文章)を読んで、事例を正しく判断する。
- (4) 頭の中から知識を取り出し、事例にあてはめ、解答を導き出す。

4つのうち1つでも出来ないと安定して高得点取得は難しい。

2. 答練を受講する目的

- (1) ペースメーカー
本番は日曜日。本試験前の1週間と同じペースで毎週を過ごす。
- (2) 本試験のシミュレーション(時間配分、解き方、座る席等)
- (3) 自分の弱点探し
(過去問はできて当たり前。問題形式が変わると同じ問題(論点)に見えないため正答できない→答練で訓練する。)
- (4) 未出を含めた試験範囲の論点を網羅する。
(過去問で網羅できるのは全体の7割、ただし頻出&重要)

3. 答練の復習の仕方

- ・受講したその日のうちに復習(答え合わせ・自分の曖昧な知識の発見、確認)は終わらせる。弱点を見つけたらそのままにしない。
- ・憲法・会社法・商業登記法→過去問が少ないため、答練の問題を中心に勉強。
- ・民訴系→出題傾向・難易度が変わっているため、過去問に追加して、答練の問題を演習。
- ・上記以外は、問題自体を繰り返しとく必要はあるか？→過去問を優先(頻出論点のため)
- ・早稲田合格答練 解説レジューメ(ポイント整理)の活用